

平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	政治経済	担当教員	久保田圭司		
学年学科	3年 MEDC 学科	通年	必修	2 単位	
学習・教育目標	(A-1) 100%				
授業の目標と期待される効果： 政治経済は高校など後期中等教育における社会科教科の一つであるが、現代社会に生きる技術者が必要とすると考えられる経済的識見を身につけることに重点を置いた構成とする。同時に消費者教育の一環として、クレジットや租税に関する計算能力を養う。具体的には以下の項目を目標とする。 ①資本主義経済の歴史の理解 ②景気循環など現代資本主義における経済現象の理解 ③20 世紀後半以降の主要経済政策の理解 ④租税の理解と代表的な直接税の算定 ⑤クレジットの利用法や危険性の理解と返済パターンの算定		成績評価の方法： 前期：中間試験 100 点(A)+期末試験 100 点(B)+計算課題 50 点(C)+論述課題 50 点(D)+学習態度 30 点(E) 後期：中間試験 100 点(A)+期末試験 100 点(B)+計算課題 50 点(C)+論述課題 50 点(D)+学習態度 30 点(E) 学年：前後期の重みを等しくして合計する 前後期学年とも $A+B+C+D+E/A+B+C+D$ で計算する総得点率(%)によって(E は分母に含まれない)成績評価を行なう ※学習態度の扱いを以下に示す。30 点を全受講学生に各学期開始時に加点したうえで、以下の内容に応じて減点する。(1)授業中の私語(5 点)、(2)授業中の熟睡と判断できる姿勢(5 点)、(3)遅刻欠席(学期単位で累積し 10 分までごとに 1 点)、(4)暴言(30 点)、(5)その他担当教員の指示注意等の無視(5 点)。態度による減点に限界はない。 ※ABCD の点数の下限は 0 点である。 達成度評価の基準： 以下に示す要素の成績評価に対する重みは均等とし、総合点の 60%以上まで達していることが必要となる。具体的採点基準は試験・課題とも学生に公開する。 ①資本主義経済の基本的な歴史を理解できる ②景気循環など現代資本主義における経済現象を理解できる ③20 世紀後半以降の主要経済政策を理解できる ④租税の現状を理解し所得税など代表的な直接税を算定できる ⑤クレジットの利用法や危険性を理解し販売信用や消費者金融の基本的返済パターンを算定できる			
授業の進め方とアドバイス： 授業は板書による説明を中心に進める分野と、計算機を使い計算演習を行う分野に分かれる。テキストは必要に応じて参照するが、テキストに沿って授業を進めるわけではないので注意が必要である。計算課題は予習を前提に授業中に達成することを基本とし、論述課題は年 2 回期限を設ける形式で課す。いずれも提出は任意である。					
教科書および参考書： 資料『政経 2017』(東京学習出版社)を使用するほか、適宜プリントを配布する。					
授業の概要と予定：前期					AL のレベル
第 1 回：年間ガイダンス、通貨概論					
第 2 回：販売信用のシミュレーション 1 (分割払い)					C
第 3 回：販売信用のシミュレーション 2 (リボルビング払い 1)					C
第 4 回：販売信用のシミュレーション 3 (リボルビング払い 2)					C
第 5 回：消費者金融のシミュレーション 1					C
第 6 回：消費者金融のシミュレーション 2					C
第 7 回：販売信用と消費者金融の復習					B
第 8 回：中間試験					
第 9 回：資本主義の歴史 1 (商業資本主義)					
第 10 回：資本主義の歴史 2 (産業資本主義 1)					
第 11 回：資本主義の歴史 3 (産業資本主義 2)					
第 12 回：資本主義の歴史 4 (ポスト産業資本主義 1)					
第 13 回：資本主義の歴史 5 (ポスト産業資本主義 2)					
第 14 回：資本主義の歴史 6 (ポスト産業資本主義 3)					
期末試験					
第 15 回：期末試験解答解説など					

授業の概要と予定：後期	AL のレベル
第16回：租税概論	
第17回：所得税のシミュレーション1(基本パターン)	C
第18回：所得税のシミュレーション2(家族がいるケースなど応用パターン)	C
第19回：住民税のシミュレーション1(基本パターン)	C
第20回：住民税のシミュレーション2(家族がいるケースなど応用パターン)	C
第21回：贈与税のシミュレーション	C
第22回：租税の復習	B
第23回：中間試験	
第24回：公債1	
第25回：景気循環1	
第26回：景気循環2	
第27回：物価変動	
第28回；基本的な金融政策	
第29回：国際通貨制度	
期末試験	
第30回：期末試験解答解説など	

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	資本主義経済の基本的な歴史に関する問題を正確(90%以上)に解くことができる。	資本主義経済の基本的な歴史に関する問題をほぼ正確(60%以上)に解くことができる。	資本主義経済の基本的な歴史に関する問題を解くことができない(正解率60%未満)。
②	現代資本主義における経済現象に関する問題を正確(90%以上)に解くことができる。	現代資本主義における経済現象に関する問題をほぼ正確(60%以上)に解くことができる。	現代資本主義における経済現象に関する問題を解くことができない(正解率60%未満)。
③	20世紀後半以降の主要経済政策に関する問題を正確(90%以上)に解くことができる。	20世紀後半以降の主要経済政策に関する問題をほぼ正確(60%以上)に解くことができる。	20世紀後半以降の主要経済政策に関する問題を解くことができない(正解率60%未満)。
④	所得税など代表的な直接税を正確(90%以上)に算定できる。	所得税など代表的な直接税をほぼ正確(60%以上)に算定できる。	所得税など代表的な直接税を算定できない(正解率60%未満)。
⑤	販売信用や消費者金融の基本的返済パターンを正確(90%以上)に算定できる。	販売信用や消費者金融の基本的返済パターンをほぼ正確(60%以上)に算定できる。	販売信用や消費者金融の基本的返済パターンを算定できない(正解率60%未満)。